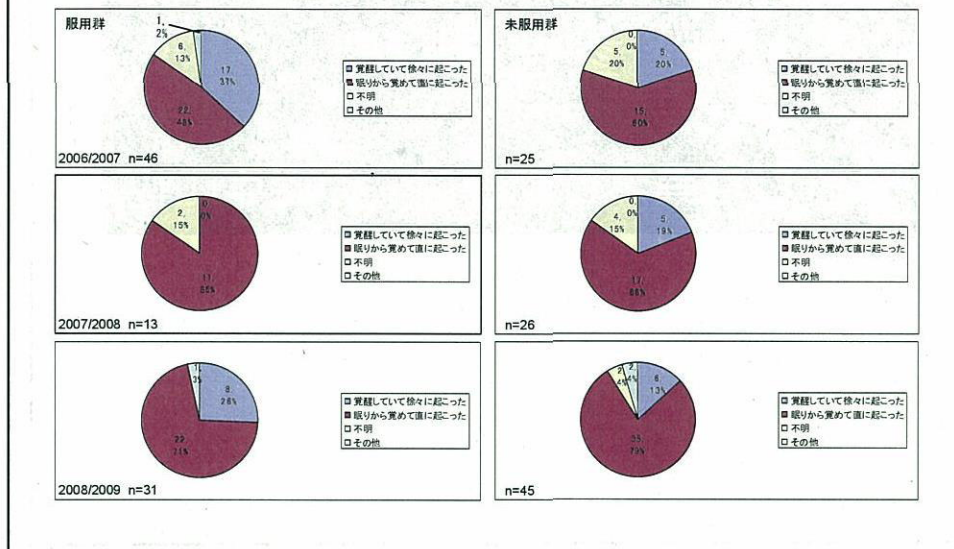


図32.タミフル有無と 異常行動と睡眠の関係



まとめ

- 2008/2009シーズンは、昨シーズンに比べ発生動向調査によるインフルエンザ様疾患患者報告数は多かった。
- 重度の異常行動は、平均8.89歳(07/08同じ)、男性に多く(07/08同じ)、発熱後2日以内(07/08同じ)の発現が多かった。
- 薬剤服用の割合は、タミフルの服用は42% (07/08は31%)、リレンザは24% (07/08は14%)、アセトアミノフェンは36%(07/08は43%)だった。
- 睡眠との関係は、眠りから覚めて直ぐに起こったものが多かった(07/08同じ)。
- 昨シーズンと比べると、薬剤服用の割合に違いがみられたが、性別や異常行動の分類別の割合では殆ど違いは見られなかった。